



付

脱初級

3つのステップで基礎力アップ

定番フレーズから

アコギ・

トレーニング



S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

Contents

第1章



ベーシック

- 01 チューニングのイロハ
- 02 リズムのイロハ
- 03 左手のイロハ
- 04 コード・チェンジのイロハ
- 05 ギター奏法記号一覧

第2章



ピック

- 01 4ビート、8ビートのストローク
- 02 シンコペーションに惑わされるべか
- 03 ブラッシングの出すグルーヴ感
- 04 16ビートでかき鳴らせ
- 05 ファンキー・カッティング!
- 06 12/8拍子に挑む
- 07 超重要テク! アルペジオ奏法
- 08 アルペジオ奏法+コード・ワーク
- 09 音を繋いで聴かせるメロディ
- 10 弦を引っ張り上げて聴かせるメロテ
- 11 オクターヴ奏法で聴かせるメロディ
- 12 フィル・インでグッとカッコ良くなる:

第3章



フィンガー

- 01 コードをつまんでボサノヴァ風
- 02 王道スリー・フィンガー
- 03 超速スリー・フィンガー
- 04 弾き語りに必須! フォー・フィンガ
- 05 カーターファミリー・ピッキングでカン

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

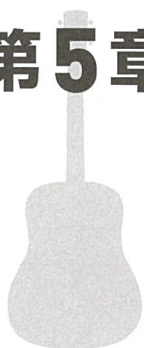
第4章



スライド.....

- 01 ボトルネックでメロディ.....
- 02 ボトルネックでコード・プレイ.....
- 03 オープン・チューニングでブルーシ.....
- 04 オープン・チューニングでブルージー.....

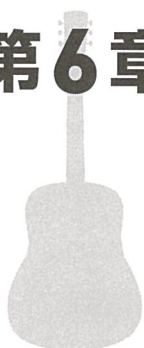
第5章



パーカッシヴ.....

- 01 キック&スネアで8ビートを叩け!
- 02 キック&スネアで16ビートを叩け
- 03 タッピング・ハーモニクスで演出す
- 04 スラップでぶっ叩け!.....

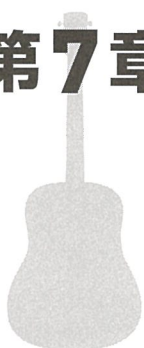
第6章



ソロ.....

- 01 大きな古時計.....
- 02 赤い河の谷間.....
- 03 オーラ・リー.....
- 04 パッフェルベルのカノン.....

第7章



スコア.....

- 01 Change the world エリック・クラプト
- 02 One more time, One more cha
- 03 START DEPAPEPE.....
- 04 風の彼方(風の詩) 押尾コータロー.....

S
A
M
P
L
E
S
A
M
P
L
E
S
A
M
P
L
E
S
A
M
P
L
E

2

4

5

3

)

2

4

5

3

)

2

4

5

3

)

2

3

)

5

)

本書の役立て方

コードを覚えたけどこれ以上何をやるべき語りをしているけど、プレイの幅がなりたい！ 本書はそんな方々にぜひの上達に主眼を置いた脱初級のための

SAMPLE SAMP LE LE SAMP LE LE

本書で身に付くこと

1章ではチューニング、リズムの取り方、左手の押さえ方やコード・チェンジについてアコギの基本を身に付けることができる。2～6章ではピック弾き、指弾き、スライドでのプレイやパーカッシヴ奏法、ソロ・ギターまでアコギのテクニックをまんべんなくカヴァーした。7章ではアコギの名曲のスコアを掲載しているの

でチャレンジしてみよう。いずれの章も、音楽理論などの説明にはできる限り触れず、アコギの奏法について徹底的に焦点を当てている。また、練習の際に役立つのが収録のCDだ。お手本を参考にしつつ、カラオケに合わせてアコギをプレイしてみよう。

CDトラックに

2～6章は掲載譜例のCDにお手本とカラオケだけでなくどう弾けばいいかのプレイをぜひ参考に。お手本プレイのすぐバックにバンド演奏されているので合わせ感覚と一緒に弾くこともお手本を参考にした後掲載譜例を弾いてみよ

CDトラック・ページの見方

2～6章では、その章を弾くにあたって必要なテクニックを説明した後にCDトラック・ページなので下の図で確認してみよう。

The diagram illustrates the layout of a book page. It includes a 'PICK' section with a 'LEVEL' indicator (1 star) and a '定番' (Fixed Number) '01'. Below this is a 'ねらい' (Objective) section with two points: '4ビート、8ビートを知る' and 'スムーズなコード・チェンジを行う'. The page contains musical notation for guitar, including a '4ビート' and '8ビート' section. There are also '応用' (Application) and '発展' (Development) sections with musical examples. At the bottom, there is a 'このアーティストを聴け!' (Listen to this artist!) section featuring John Jorgenson and a 'ピックアップ' (Pickup) section for 'Franco-American Swing!'.

- ①この項目の難易度が示されている。ページ問わず難易度の低いものからトライするのも良いだろう。
- ②該当するCDのトラック番号。お手本→カラオケの順で収録されている。
- ③この項目で身に付けることのできる内容が記載されている。
- ④おなじみのフレーズの譜例。全て4小節で構成されている。

- ⑤定番で習得できる。小節で構成されている。
- ⑥応用からさらに難易度が上がる。
- ⑦おすすめのアコースティックギターの1章にもある。
- ⑧おすすめのギタリストの紹介。

まえがき

アコースティック・ギターを掻き鳴らして、程度ならできるようになったが、他にももっと奏ができるのでは？ アコギ名手のプレイは、の音と違うぞ？ そんな疑問を持ったままアコていないだろうか？ アコースティック・ギタード・ストローク以外にも様々なテクニックが語りをはじめ、バンドでのプレイや独奏プレイで、ロック、ブルース、カントリー、ボサノヴズ等、多岐にわたるジャンルで活躍している楽コードを覚えてストロークをするまでは、何とていだけでも、もちろん楽しい。しかし、さびを得るためには、それぞれのプレイに特化しなければならない。各プレイの基本スタイルみ、それぞれを発展させたプレイをコピーす自分自身のテクニックとして習得することがで書では様々なアコースティック・ギターのテク取り上げ、基本スタイルから順を追って解説中には、聞いたこともない名前のテクニックがしれないが、CD音源を参考に、さらなるギターの発展を目指して練習してみよう。

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

第1章

ベーシック

アコギの実践的な練習に入る前に、チューニングやリズム、左手ド・チェンジのポイントなど、“初心忘るべからず”の気持ちで的なことを確認していこう。

01 チューニングのイロ

「アコギを弾く前には必ずチューニングを」普段当たり前のめてチューニングの大切さを確認し、その精度を上げるた

チューニングの基本

チューニングの意味

正しいチューニングでないと他の楽器と音が合わないため一緒に弾いても気持ち良いハーモニーが作れない。音程は音楽の共通言語だと考えよう。

正しいチューニングで練習しているとしっかりした音感が身に付く。反対にいつも少しだけ音が低い状態で練習していると、その音が正しいと脳が認識してしまう。

アコギの演奏には、少なからず音感が必要だ。バンド演奏時は他楽器とのハーモニーのずれに気付く必要もある。弾き語り

ハーモニクス・チューニング

アコギの5、7フレットのハーモニクス音を使いチューニングする方法も紹介しておく【図1】。隣り合う2本の弦のハーモニクス音を鳴らした時に発生するウワーンウワーンという音の揺れがなくなる状態にする。丁寧にチューニングをしていれば、揺

ではコードを弾いた瞬間にチューニングの良し悪しが分かった方がよい。これらの第一歩は正しいチューニングから始まるのだ。

必ずチューナーを使う

チューニングは必ずチューナーを用いる。5フレット・チューニングやハーモニクス・チューニングといった方法もあるが、基本はチューナーだ。ある程度アコギを弾き慣れてきたら、精度が高く、より正確で素早くできるチューナーを活用する事をオススメする。安価なチューナーには“大体”しか合

れは起きない【図2】。音の揺れを聴き取れるようになると、例えばコードを弾いた際に押弦した指の力みによる音の濁りなども聴き取れるようになる。このように音感を鍛える事が可能なので、ハーモニクス・チューニングをできるようにすると良いだろう。

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

このギタリストを聴け!

Django Reinhardt

ジャンゴ・ラインハルト
(フランス 1910 ~ 1953)
Gypsy Swing

フランス〜ベルギー国境付近のジブシー・コミュニティで産声を上げたジャンゴが十代でジャズと出会った時、彼の血に流れる先祖伝来のロマ音楽とそれは化学反応を起こし、「ジブシー・スウィング(マヌーシュ・スウィング)」という新しい音楽が生まれた。

18歳でのプロ・ギタリスト稼業の幕開け。火

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

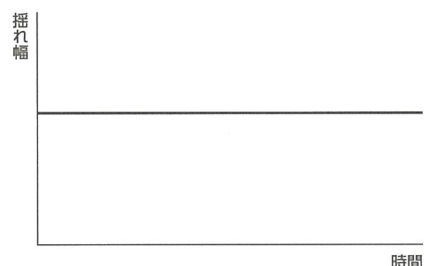
S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

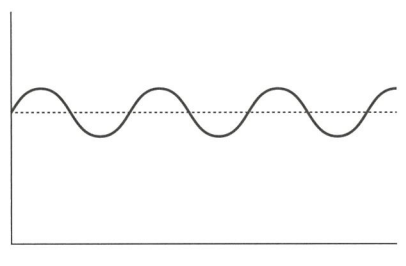
ただし、ハーモニクス・チューニングでは厳密には完璧なチューニングができない(細かい調律の話なので本書では割愛する)。またハーモニクス・チューニングではネックの反りがないなど、ギターの状態が良好である事が前提となる。

そのため、チューナーがないなどの臨時のときにだけハーモニクス・チューニングを使う。

【図2】音の揺れ



▲完全に合っている状態。



▲少しずれている状態。

チューニングはこまめに

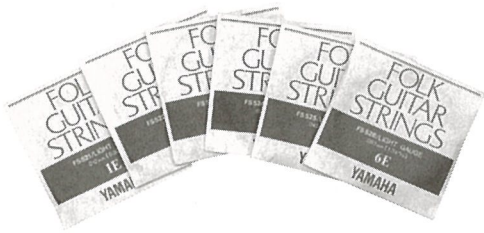
チューニングは演奏の始めにだけすれば良いものではない。演奏中にも狂ってくるもの。例えば体温で弦が温まったりする事でチューニングが変わるためだ。また季節によっても狂いやすさに差が生じる事もある。練習前はもちろん、練習をしている最中でもこまめにチューニングを確認しよう。

ギター・メンテナンス

弦は定期的に変える

弦が古くなるとチューニングが合わなくなってくる。特に弦が変色していたり汚れが付いているようなら、新しい弦に替えて練習をしよう。正しいチューニングで練習をするために弦は定期的に変えよう。

【写真2】弦セット



▲予備として常に1セットは持っておこう。

練習後はクロスで拭く

アコギを弾いた後は手の汗が弦に残ってしまうため、何もしないと弦の劣化が進みやすくなる。弦を長持ちさせるためにも、練習後にはクロスで弦を拭く習慣を付けよう。

【写真3】クロス



▲ギターを拭くクロスは専用のものを使う。

これを聴け!



ジャンゴの時代は、SPレコードが主流なので、現在アルバムで彼の演奏に触れる場合はどうしても、何らかの意図で編まれた編集盤という事になる。いっそボックスで音源を全部揃えてしまっても良いが、あえて何か1枚を選ぶなら、この辺だろうか。'38,'39,'46年という大戦をまたいで、HOT CLUB OF FRANCE 四重奏団との録音が集

02 リズムのイロハ

アコギは元より、音楽にとってリズムはとても大切なものな音でも音楽にはならない。リズムの重要性を再確認してしよう。

リズムは大切

アコギを始めた頃は、弦を押さえるのに必死になり、指を動かす事に重点を置いて練習をすると思う。しかし長くアコギを弾いていると、どんなに指が動くようになっても、リズムが合っていないものはフレーズとして成り立たない事に気が付くだろう。音楽にとって音程や音色も大切だが、根本にあるのはリズムなのだ。リズムだけ

でも音楽は成り立つが、リズムのない音は、ただの音にしかならない。あらためてリズムの大切さを考えて練習してみよう。

ビートとは

ダウン・ビートは日本語では強拍、アップ・ビートは弱拍と呼ぶ。読んだ字のまま、強い拍と弱い拍と解釈してしまって構わないだろう。例えば4/4拍子の1小節に4つ

S
A
M
P
L
E

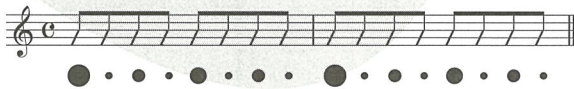
S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

【図1】様々な拍子による基本的なビート

4/4拍子



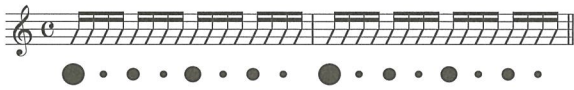
▲●の大きさがビートの強さになる。1拍目が最も強く、3拍目が次に強い。

アップ・ビートを強調したロッ



▲エイト・ビートはドラムのス

16分音符で構成される4/4拍子(16ビート)



▲ビートの感じ方は4/4拍子と同じだ。

4分音符で構成される4/4拍子



▲4つの4分音符の裏をしっか

2/2拍子



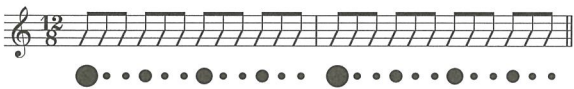
▲比較的アップ・テンポな曲に見られる。昔の歌謡曲などには非常に多かった。

6/8拍子



▲身体が弾むような感覚のリフ

12/8拍子



▲ブルースで頻繁に使われる。4/4拍子の3連符ヴァージョンだと思えば良い。

3/4拍子



▲ワルツなどで使われるリズム

このギタリストを聴け!

Michael Hedges

マイケル・ヘッジス
(アメリカ 1953 - 1997)
New Age

「It's a magic!」ウィリアム・アッカーマンがヘッジスの音を聴いたときに放ったこの言葉は、新時代を切り開いたものに向けられる言葉の1つだろう。当時「Aerial Boundaries」をターン・テーブルに乗せてあのタッピングが流れてきた時、まわりの空気が5°低下したように感じた。クライマックスでの地を這うような重低音は呼吸すら

メトロノームを使う

練習は必ずメトロノームを使ってテンポに正確に合わせる。メトロノームは拍頭を打つように鳴らし、リズムを拍ごとに合わせるようにする。決して8分のテンポに合わせないように。リズムは大きなビートを感じる方が良い。細かいビートでリズムを合わせると、初めのうちはリズムを合わせやすく感じるが、演奏のスケールが小さく

聴こえてくるためだ。例えば4/4拍子であれば、必ず4分でリズムを合わせる練習をしよう。4分打ちに慣れたら、さらに倍の遅さにして、1拍、3拍をメトロノームに合わせる練習をしてみよう【図2】。2、4拍をアップ・ビートとして体で感じ、アコギで表現できるようになる感覚を身に付けると良いだろう。

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

Ex-1 ▶ 4/4拍子でリズム強化



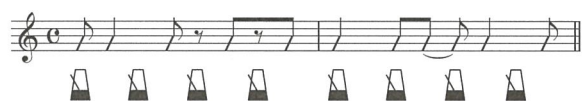
▲まずはブラッシングでリズムを刻む練習をする。メトロノームは4分で鳴らし、拍ごとのリズムを感じながら様々なパターンを弾いてみよう。

Ex-2 ▶ 16ビート



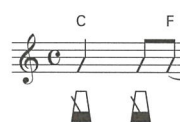
▲16ビートは特に拍ごとの6つだけなので1拍ずつ

Ex-3 ▶ シンコペーションと休符でリズム強化



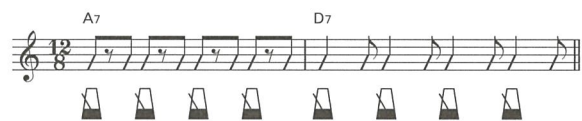
▲音を鳴らさない所でもリズムを取る事が大事。強拍で鳴らしているメトロノームの裏のアップ・ビートを感じながら弾く練習をしておこう。

Ex-4 ▶ コード・



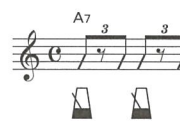
▲コード・チェンジに気をでのコード・チェンジは構

Ex-5 ▶ 12/8拍子でリズム強化



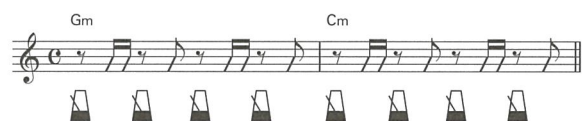
▲12/8拍子でのリズム。3連ノリのハネる感じをものにしよう。

Ex-6 ▶ シャツ



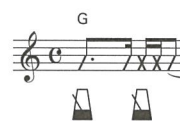
▲シャフル・ビートは12/裏と表で長さが違う事に注

Ex-7 ▶ レゲエでリズム強化



▲ダウン・ビートに音がないレゲエのリズム。常にメトロノームと交互に音を弾く事になる。アップ・ビートを感覚的にとらえる練習になる。

Ex-8 ▶ 16ビート



▲16ビートにシンコペーを常に意識したプレイをバ

これを
聴け!

「Aerial Boundaries」
(1984年)

タッピング等の特殊奏法やイレギュラー・チューニング等で多く語られるヘッジスだが、'84年の金字塔「Aerial Boundaries」にはもう1つ別のエポック・メイキングな側面がある。ギター・インストの魅力を増幅させるサウンド・システムの確立だ。それは、マグネットやピエゾの複数ピックアップと生音をブレンドするハイブ

03 左手のイロハ

コードをしっかり押さえられない、指が速く動かない等のそう。左手はただ弦を押さえれば良いものではなく、スム

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

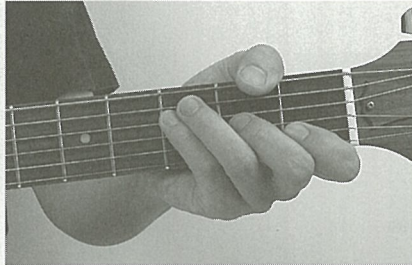
S
A
M
P
L
E

左手の基本を見直す

左手のフォームは2種類

左手のフォームはおおよそ2つの種類に分ける事ができる。カントリー・グリップ【写真1】とクラシック・グリップ【写真2】だ。前者はロー・コードの押弦やメロディを弾く場合に向いているフォーム。後者は指を大きく開く事が可能でセーハを用いるコードの際に使う。使い分けを意識しよう。

【写真1】カントリー・グリップのフォーム

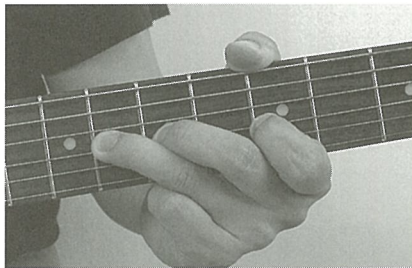


▲ネックを握って、親指をネック上に出しておく。押弦する指はフレットに対して斜めに構える。

バタつき防止その1

指の無駄な動きは素早い運指の妨げになり、ミス・トーンを出してしまう原因の1つ。バタつき防止方法の1つが、一度押さえた指は必要がない限り弦から離さない事。例えば同一弦の5、7、8フレットを人差指、中指、薬指で押弦する場合、薬指を押さえるまで、最初に押さえた人差指、中指を離さない【写真3、4】。常にこの方法を意識しよう。

【写真3】5、7、8フレット押弦/カントリー・グリップ

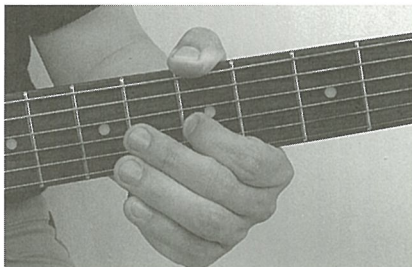


▲押さえた指は8フレットを薬指で押弦してもそのままにしておく。

バタつき防止その2

カントリー・グリップでは、押弦する指に限らず全ての指がまとまって動くように、付け根を離さないで運指する【写真5】。クラシック・グリップでは中指の真裏に親指を持って来よう【写真6】。小指も動かしやすい。ネックを握らないようにするのもポイント。握り込むと、力みにより素早い運指ができなくなってしまいます。

【写真5】指を揃えて/カントリー・グリップ



▲指を揃えて指先だけが動くように運指する。人差指だけの押弦も、他の指が弦から遠くに離れ過ぎないように動かそう。

このギタリストを聴け!

Paul Simon

ポール・サイモン
(アメリカ 1941 ~)
Folk / Rock

稀代のフォーク・デュオ、SIMON & GARFUNKELのほとんどの作詞・作曲と演奏を行ったのは、ポール・サイモンその人である。[Sound of Silence]のブレイク前に彼はイギリスに渡っており、そのせいでもないだろうが、アメリカのフォーク・シーンで活躍したアーティストの多くが、カントリーやブルース等の自国ル

弦を押さえる

指を立てる

押弦する際、指は必ず立てて弦を押さえる【写真7,8】。指を立てることによってクリアな音が鳴るようになり、他の弦との接触を防ぐこともできる。特にオープン・コードなどを鳴らす際は、開放弦に指が触れると音が鳴らないので気を付けよう。

【写真7】指を立てて押さえる／OK例



▲隣りの弦に触れないことが大事。

フレットのキワを押さえる

単音を押さえる際もコードを押さえる際も、必ずフレットのキワを押さえること【写真9,10】。フレットから離れた位置を押弦すると、弦がビビって良い音が出ない。特に1～5フレット辺りのポジションはフレット同士の感覚も広いので注意しよう。

【写真9】フレットのキワを押さえる／OK例



▲フレットのギリギリを押弦するとクリアな音が鳴る。

指を揃える

単音の押弦時はカントリー・グリップが基本。そして、できるだけ複数の指で弦を押さえて構える事【写真11,12】。例えば薬指で押弦する場合、中指と人差指も同一弦上で弦を押さえる。こうすることで、薬指の補助として人差指、中指が働き、弦をしっかり押さえる事ができる。

【写真11】指を揃える／OK例

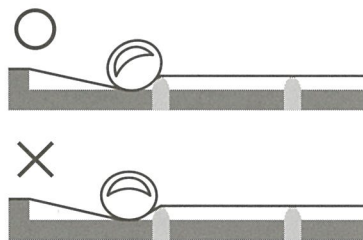


▲押弦している指以外を補助として使うことで押弦する力が増す。

セーハを鳴らす

セーハはアコギの押弦でも難しい部類に入るが、スムーズに押弦する3つのポイントがある。まずフレットのキワを押さえる事。そして、人差指は側面で押さえること【図1】。最後に指の関節部分に弦をはめない事だ【図2】。セーハは慣れの問題もあり、アコギを続けていくうちにできるようになるだろう。

【図1】指の側面で押弦する



▲できるだけフレットのキワを押さえると音が鳴りやすくなる。

サイモンの演奏で、かのアコギ・インストの名曲「Angie」を知った人も多いと思う。それを聴くならSIMON & GARFUNKELのアルバム「Sound of Silence」だが、彼の音楽の多様性を聴いてもらいたくてこの盤を選んだ。'72年、SIMON & GARFUNKEL 解散後に発表したソロ作である。レゲエやカリブソ、南米フォルクローレにボサノ

これを
聴け!

「Paul Simon」
(1972年)

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

04 コード・チェンジの

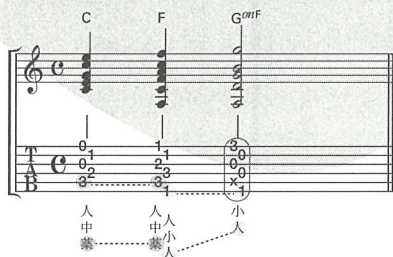
アコギは、コード・ストロークが主なプレイ・スタイルと
繁に行う。スムーズなコード・チェンジはアコギの上達に

スムーズなコード・チェンジのために

コードを押さえられるようにする

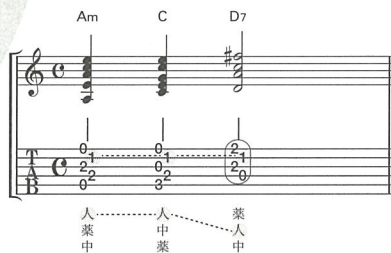
スムーズなコード・チェンジのためにはまず、各コード・フォームを指にしっかり馴染ませておく必要がある。特に頻繁に使うC、G等のロー・コードや、基本的なセーハ・コードのF、B^bなどはスムーズに押さえられるようにしておこう。

【図1】共通する指を動かさない例



最小の動きを意識する

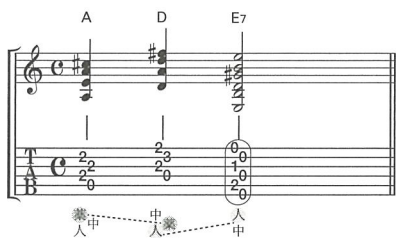
コード・チェンジはとにかく迅速な動きが求められるため、無駄な動きを極力少なくすることがポイントの1つだ。イメージとして、指を弦から離してしまわないように、弦の上を這うように動かすことに意識をおいて練習すると良いだろう。



同じ指で押弦する弦

コードの中には同じ指で同じ弦を押弦するフォームがある。このようなコードが並んだ場合は、指を弦から離さずにスライドさせてポジション移動する【図2】。指をできるだけ離さずに行うことがポイント。

【図2】指は弦から離さない

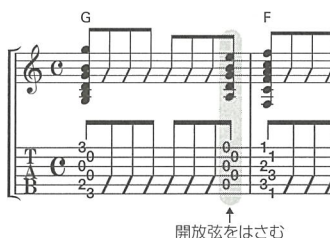


Column ▶ どうしてもでき

開放弦をはさむ

コード・チェンジでもたつて、リズムの流れを損なうくらいであれば、ごまかした方がよい。コード・チェンジの前で開放弦を鳴らしてしまおう【図3】。

【図3】ごまかしテクニック



S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

このギタリストを聴け!

中川イサト

なかがわ いさと
(日本 1947 ~)
New Age / Folk

日本アコギストの草分け的存在。'60年代後半から様々なユニットでの活動を経て、ソロ・ギタリストとしての地位を確立した現在に至る。セッションやギター・スクール等手広く活動し、門下には押尾コータローら多くの優れたギタリストがいる。音楽的には、モダン・フォークを出発点として、カントリー・ブルース分野の海外ギタリストから

05 ギター奏法記号一覧

本書では次のようなアコギの演奏記号を使っている。楽譜ればこのページでチェックしよう。

<p>01 ピッキング記号</p> <p>▲ピッキングの方向を示す記号。□はダウン・ピッキング、Vはアップ・ピッキングのこと。カッコ付きの場合は空ピックの意味。</p>	<p>02 右手運指記号</p> <p>▲ある音を右手のどの音ではじくかを示している。人=人差指、中=中指、薬=薬指、親=親指の意味でTAB譜の上に書かれている。</p>	<p>03 左手運指記号</p> <p>▲左手で押さえている指を示す記号。差指、中=中指、薬=薬指、小=小指</p>
<p>05 ブラッシング</p> <p>▲左手の指で弦に軽く触れた状態でピッキングをして「ジャツ」という音程のないパーカッシブな音を出す奏法。</p>	<p>06 アルペジオ奏法</p> <p>▲弾いた弦の余韻を残しながら他の弦の音を出す奏法。主にコード・プレイにおいて使われる。</p>	<p>07 チョーキング</p> <p>▲弦を指で引き上げる、もしくは1音分(2フレット分)の音程変化を</p>
<p>09 クォーター・チョーキング</p> <p>▲4分の1の音程変化を付ける、ブルーザーなチョーキング。音程は厳密である必要はない。</p>	<p>10 チョーク・アップ</p> <p>▲チョーキングした状態の音。弦を引き上げる過程の音は入らない。半音、1音、チョーク・アップなどがある。</p>	<p>11 チョーク・ダウン</p> <p>▲チョーキングした弦を元に戻して、音程を下げる奏法。半音、1・ダウンなどがある。</p>
<p>13 プリング・オフ</p> <p>▲押弦している左手の指を引っかくようにして外してあらかじめ押さえておいた他の音を出す奏法。ピッキングは始めの音のみ。</p>	<p>14 スライド</p> <p>▲ある音を弾いた後に、そのまま押弦している左手の指を浮かさずに同じ弦上の別のポジションに移る奏法。</p>	<p>15 グリッサンド</p> <p>▲スライドと同じように指を滑り始める音、もしくは終わりの音がないのがスライドとの違い。</p>

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

S
A
M
P
L
E

これを聴け!

「Sayonara」
(1991年【魔】)

'91年にBMGビクターから、ニュー・エイジ・ミュージックからの影響をひと通り消化しきった上で、「90年型中川イサト」としての個性を確立した本格ギター・ソロ・アルバム。14曲中、2曲を除いてアコギ・インストであるが、「蘇州夜曲」などが聴けるのは日本人アーティストならではの、個人的にはドライなギター演奏が好みなので、